

ガラテヤの信徒への手紙
礼拝シリーズ 2月14～3月7日
「キリストによる自由」
QT シリーズ



東京キリストの教会

ガラテヤの信徒への手紙

新約聖書を読む前に考えること：

- 1) 誰：誰が誰にいつ手紙を書いているか（手紙は人と人との間のコミュニケーション）誰が手紙の対象となっているか？
- 2) 問題：ほとんどの場合何かの問題を解決するために手紙が書かれている。
- 3) 解決方法：神様が与えた解決方法とは何か？

二つの段階を踏む必要がある

- 1) 聖書解説：原文が何を意味しているか？2000年前のその当時の世界に入り、彼にとって、この御言葉のメッセージは何を意味するかをまず把握する。聖書解説は主観的であるべきではない。
(釈義：EXEGESIS 聖書から意味を引き出す)
- 2) 聖書解釈：正確に解説を行った後に、今の我々に何を意味するかを考え、応用すること。この過程は主観的で絶対的ではない。

I. 誰

重要な人物は3つのグループに入る

1) 使徒パウロ：

手紙の著者。病気をきっかけにここの地域に滞在し、その期間に教会を建てた。パウロはこの弟子たちと親密な関係があった。この教会を建て、命がけで守った。この手紙にかなりの熱情がこもっている。

2) ガラテヤのクリスチャン：

主に異邦人クリスチャン。生まれつきユダヤ人ではない。この手紙は一つの都市ではなく、ガラテヤ地方の複数の教会宛に書かれた。その都市とはピシディア州アンティオキア、リストラ、イコニオン、デルベ。（使徒13-14）ガラテヤ州（ローマの州）もともとガウロ（GAUL）地方（現代フランス）からの人々が征服した土地。ガラテヤ地方の異邦人は野蛮的だったと言われていた。「背が高く、力は強いが騙しやすい」と言われていた。

3) ユダヤ主義者（偽兄弟）

パウロの宣教活動に対して、ねたみ、敵対心を持ち、パウロを迫害し、殺そうとする。その後も激しく迫害し、異邦人の改宗者に対して、割礼を始め、ユダヤ教の儀式などを行い、ユダヤ教の律法の下に生きなければ救われないと教え、ガラテヤのクリスチャンを惑わしている。この人達は同時にパウロの使徒としての資格を疑い、パウロへの不信感をもつように影響している。

II. 問題

- 1) ユダヤ主義者からの強い影響を受けて、ガラテヤのクリスチャンはキリストの福音の教義からユダヤ教の教義へとずれている。
- 2) 使徒パウロの使徒としての権限と教えの源が疑われている。
- 3) 救われたクリスチャンにもモーセの律法に従うことが義務づけられている。

キリストの福音そのものが危険な状態にさらされている

III. 解決

- 1) キリストの福音に立ち返る
- 2) キリストにより救われた者こそがアブラハムの子孫であることを理解する
- 3) 人は律法ではなく、信仰により救われている。アブラハムが神と結んだ契約は律法よりも400年以上古い。
- 4) 使徒パウロは歴史を通して、理屈を通して、愛を通して熱弁しガラテヤのクリスチャンがユダヤ主義的な考えを捨てて、キリストの十字架を主にした福音のメッセージに立ち返るように働きかけます。

ガラテヤ書 QT シリーズ 一週目

使徒 13 : 13 ~ 14 : 28、ガラテヤ一章

<一日目：ピシディア州アンティオケで迫害を受ける> (使徒 13 : 13 - 52)

13:44 次の安息日になると、ほとんど町中の人々が主の言葉を聞こうとして集まって来た。

13:45 しかし、ユダヤ人はこの群衆を見てひどくねたみ、口汚くののしって、パウロの話すことに反対した。

13:46 そこで、パウロとバルナバは勇敢に語った。「神の言葉は、まずあなたがたに語られるはずでした。だがあなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠の命を得るに値しない者にしている。見なさい、わたしたちは異邦人の方に行く。

13:47 主はわたしたちにこう命じておられるからです。『わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、あなたが、地の果てにまでも救いをもたらすために。』」

13:48 異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を賛美した。そして、永遠の命を得るように定められている人は皆、信仰に入った。

13:49 こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。

13:50 ところが、ユダヤ人は、神をあがめる貴婦人たちや町のおもだった人々を扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。

13:51 それで、二人は彼らに対して足の塵を払い落とし、イコニオンに行った。

13:52 他方、弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

1) 人間は何故、他の人をねたみますか？あなたは最近、誰かに対してねたんでいますか？誰ですか？何故ですか？今、誰かにねたまれて傷つけられていますか？

2) 今までクリスチャンであることで迫害されたり、馬鹿にされたり、差別されたり、仲間はずれにされた経験がありますか？それによって今でも傷ついていますか？弟子たちは何故迫害を受けた時喜びに満たされていましたか？

<二日目：命がけで福音を伝える> (使徒 14 : 8 - 22)

14:11 群衆はパウロの行ったことを見て声を張り上げ、リカオニアの方言で、「神々が人間の姿をとって、わたしたちのところにお降りになった」と言った。

14:12 そして、バルナバを「ゼウス」と呼び、またおもに話す者であることから、パウロを「ヘルメス」と呼んだ。

14:13 町の外にあったゼウスの神殿の祭司が、家の門の所まで雄牛数頭と花輪を運んで来て、群衆と一緒に二人にいけにえを献げようとした。

14:14 使徒たち、すなわちバルナバとパウロはこのことを聞くと、服を裂いて群衆の中へ飛び込んで行き、叫んで

14:15 言った。「皆さん、なぜ、こんなことをするのですか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間にすぎません。あなたがたが、このような偶像を離れて、生ける神に立ち帰るように、わたしたちは福音を告げ知らせているのです。この神こそ、天と地と海と、そしてその中にあるすべてのものを造られた方です。

14:16 神は過ぎ去った時代には、すべての国の人々が思い思いの道を行くままにしておかれました。

14:17 しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。」

14:18 こう言って、二人は、群衆が自分たちにいけにえを献げようとするのを、やっとやめさせることができた。

14:19 ところが、ユダヤ人たちがアンティオキアとイコニオンからやって来て、群衆を抱き込み、パウロに石を投げつけ、死んでしまったものと思って、町の外へ引きずり出した。

14:20 しかし、弟子たちが周りを取り囲むと、パウロは起き上がって町に入って行った。そして翌日、バルナバと一緒にデルベへ向かった。

14:21 二人はこの町で福音を告げ知らせ、多くの人を弟子にしてから、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返しなから、

14:22 弟子たちをカづけ、「わたしたちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない」と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。

1) ガラテヤ地方の人たちは偶像礼拝する傾向がありました。生ける神ではなく、他のものを「神」だと考えやすい民でした。日本人にもその様な傾向があるでしょう。今あなたの心を支配している「偶像」はありますか？神よりも一番に思っている物、又はあなたの心を縛りつけて支配していること（仕事、上司、家族、お金、成功、楽な人生、評判、趣味、子供、夢。。。）ありましたら書き出してください。 _____

2) パウロは殺されそうになってもガラテヤ地区に戻り、弟子たちを励ましました。兄弟姉妹のために自分の身を削りながら愛した経験を思い出してください。その兄弟姉妹に対して特別な思いがあるのではないですか？その兄弟姉妹が離れたり、信仰に迷ったりするとどのような気持ちになりますか？パウロのガラテヤの教会への怒りが理解できますか？共感できますか？ _____

3) 難しい状況にあったクリスチャンに対してパウロはどのような言葉で励ましましたか？これは私たちの励まし方と違いますか？ _____

<三日目：人ではなく、神からの福音>（ガラテヤ1：1－5）

- 1:1 人々からでもなく、人を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ、
1:2 ならびに、わたしと一緒にいる兄弟一同から、ガラテヤ地方の諸教会へ。
1:3 わたしたちの父である神と、主イエス・キリストの恵みと平和が、あなたがたにあるように。
1:4 キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。
1:5 わたしたちの神であり父である方に世々限りなく栄光がありますように、アーメン。

1) 自分の回心を思い出してください。神の業であると確信するものは何ですか？どのような奇跡がありましたか？ _____

2) どのような悪から救い出されましたか？救われた前の人生を思い出し、どのような人生であったかを書き出してください。 _____

<四日目：福音から離れることへの怒り>（ガラテヤ1：6－10）

- 1:6 キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。
1:7 ほかの福音といっても、もう一つ別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。
1:8 しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告げ知らせたものに反する福音を告げ知らせようとするならば、呪われるがよい。
1:9 わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。
1:10 こんなことを言って、今わたしは人に取り入ろうとしているのでしょうか。それとも、神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、何とかして人の気に入ろうとあくせくしているのでしょうか。もし、今なお人の気に入ろうとしているなら、わたしはキリストの僕ではありません。

1) 福音から離れるガラテヤの兄弟に対してパウロは何故それほど怒りがあったのでしょうか？福音から離れる人々に対して神様はどのような気持ちだったのでしょうか？ _____

2) 今のクリスチャンライフは人のためですか？それとも神様のためですか？
今まで神様ではなく、人の目を気にして、人のためにやったことはありますか？

<五日目：福音の力強さ> (ガラテヤ1：11－24)

1:11 兄弟たち、あなたがたにはっきり言います。わたしが告げ知らせた福音は、人によるものではありません。

1:12 わたしはこの福音を人から受けたのでも教えられたのでもなく、イエス・キリストの啓示によって知らされたのです。

1:13 あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。

1:23 ただ彼らは、「かつて我々を迫害した者が、あの当時滅ぼそうとしていた信仰を、今は福音として告げ知らせている」と聞いて、

1:24 わたしのことで神をほめたたえておりました。

1) 福音は人からではなく、神からのものだかどうか分りましたか？クリスチャンになる時を振り返って、どのように神様はあなたの心を変えましたか？

2) クリスチャンになってから一番変わったこと、周りの人が又は自分が驚いたことは何ですか？最近はどのように変わり、成長しましたか？

3) クリスチャンになったことで神様に感謝していることをここに書いてください。

ガラテヤ書 QT シリーズ 二週目

ガラテヤ 2 章～3 章

＜一日目：神に承認されたパウロ＞（ガラテヤ 2 章：1-10）

2:1 その後十四年たってから、わたしはバルナバと一緒にエルサレムに再び上りました。その際、テトスも連れて行きました。

2:2 エルサレムに上ったのは、啓示によるものでした。わたしは、自分が異邦人に宣べ伝えている福音について、人々に、とりわけ、おもだった人たちには個人的に話して、自分は無駄に走っているのではないか、あるいは走ったのではないかと意見を求めました。

2:3 しかし、わたしと同行したテトスでさえ、ギリシア人であったのに、割礼を受けることを強制されませんでした。

2:4 潜り込んで来た偽の兄弟たちがいたのに、強制されなかったのです。彼らは、わたしたちを奴隷にしようとして、わたしたちがキリスト・イエスによって得ている自由を付けねらい、こっそり入り込んで来たのでした。

2:5 福音の真理が、あなたがたのもとにいつもとどまっているように、わたしたちは、片ときもそのような者たちに屈服して譲歩するようなことはしませんでした。

2:6 おもだった人たちからも強制されませんでした。——この人たちがそもそもどんな人であったにせよ、それは、わたしにはどうでもよいことです。神は人を分け隔てなさいません。——実際、そのおもだった人たちは、わたしにどんな義務も負わせませんでした。

2:7 それどころか、彼らは、ペトロには割礼を受けた人々に対する福音が任されたように、わたしには割礼を受けていない人々に対する福音が任されていることを知りました。

2:8 割礼を受けた人々に対する使徒としての任務のためにペトロに働きかけた方は、異邦人に対する使徒としての任務のためにわたしにも働きかけられたのです。

2:9 また、彼らはわたしに与えられた恵みを認め、ヤコブとケファとヨハネ、つまり柱と目されるおもだった人たちは、わたしとバルナバに一致のしるしとして右手を差し出しました。それで、わたしたちは異邦人へ、彼らは割礼を受けた人々のところに行くことになったのです。

2:10 ただ、わたしたちが貧しい人たちのことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心がけてきた点です。

1) パウロは何度も人に選ばれたのではなく、神に選ばれたと言い続けました。人の目よりも神の目を気にしていました。パウロにとっても「おもだった人」がいました。自分は今どの人間関係に左右されやすいですか？誰の目を気にしてしまいますか？それはどうしてですか？神様よりもその人の目を気にしてしまうことはないですか？

2) パウロは異邦人へペテロなどがユダヤ人へ宣教するために任務を与えられた確信がありました。あなたは誰へ宣教するために任命されていますか？あなたを必要としている人、神様があなたを特別に造られて送り出している人は

誰ですか？ _____

3) 10節には「貧しい人を忘れないように」とあります。改めて貧しい人、困っている人のために何か奉仕するように心がけましょう。

<二日目：> (ガラテヤ2：11－21)

2:11 さて、ケファがアンティオキアに来たとき、非難すべきところがあったので、わたしは面と向かって反対しました。

2:12 なぜなら、ケファは、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、彼らがやって来ると、割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしだしたからです。

2:13 そして、ほかのユダヤ人も、ケファと一緒にこのような心にもないことを行い、バルナバさえも彼らの見せかけの行いに引きずり込まれてしまいました。

2:14 しかし、わたしは、彼らが福音の真理にのっとなってまっすぐ歩いていないのを見たとき、皆の前でケファに向かってこう言いました。「あなたはユダヤ人でありながら、ユダヤ人らしい生き方をしないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のように生活することを強要するのですか。」

2:15 わたしたちは生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません。

2:16 けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。

2:17 もしわたしたちが、キリストによって義とされるように努めながら、自分自身も罪人であるなら、キリストは罪に仕える者ということになるのでしょうか。決してそうではない。

2:18 もし自分で打ち壊したものを再び建てるのであれば、わたしは自分が違犯者であると証明することになります。

2:19 わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。

2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

2:21 わたしは、神の恵みを無にはしません。もし、人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。

1) なぜパウロは人の前でペテロ（ケファ）を非難しましたか？ペテロの罪は具体的に何でしたか？あなたは愛する兄弟姉妹が真理にのっとり歩いていないと分かった時、パウロの様に導くことができますか？今あなたの人生にその様な人がいますか？ _____

2) ペテロの見せかけの行いによってバルナバまで引きこまれてしまいました。自分が語った言葉、態度や行いによって誰かにつまずきを与えていないでしょうか？家族の人、学び会の人、親しい兄弟姉妹？ _____

3) 20-21節の「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」という言葉は自分にとって具体的にどういう意味がありますか？ _____

<三日目：律法によるか、信仰によるか> (ガラテヤ3：1-5)

3:1 ああ、物分かりの悪いガラテヤの人たち、だれがあなたがたを惑わしたのか。目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきり示されたのではないか。

3:2 あなたがたに一つだけ確かめたい。あなたがたが“霊”を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも、福音を聞いて信じたからですか。

3:3 あなたがたは、それほど物分かりが悪く、“霊”によって始めたのに、肉によって仕上げようとするのですか。

3:4 あれほどのことを体験したのは、無駄だったのですか。無駄であったはずはないでしょうに……。

3:5 あなたがたに“霊”を授け、また、あなたがたの間で奇跡を行われる方は、あなたがたが律法を行ったから、そうなさるのでしょうか。それとも、あなたがたが福音を聞いて信じたからですか。

3:6 それは、「アブラハムは神を信じた。それは彼の義と認められた」と言われているとおりです。

3:7 だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまえなさい。

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、「あなたのゆえに異邦人は皆祝福される」という福音をアブラハムに予告しました。

3:9 それで、信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています。

3:10 律法の実行に頼る者はだれでも、呪われています。「律法の書に書かれているすべての事を絶えず守らない者は皆、呪われている」と書いてあるからです。

3:11 律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです。

3:12 律法は、信仰をよりどころとしていません。「律法の定めを果たす者は、その定めによって生きる」のです。

3:13 キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。

3:14 それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、わたしたちが、約束された“霊”を信仰によって受けるためでした。

1) なぜパウロは惑わされているガラテヤのクリスチャンに対してこれほどの怒りをもっていますか？ _____

2) なぜ最初にあった信仰からずれて流されるようになりましたか？自分自身の信仰生活を振り返って、最初の信仰に比べ、ずれたり流されたりしていますか？その問題の原因は何ですか？どう解決しますか？ _____

3) 13節によると「キリストは私たちのために呪いとなった。」。十字架に架かってくれたキリストに対しての感謝の思いを書き出してください。 _____

<四日目：律法がつくられた目的> (ガラテヤ3：15－25)

3:15 兄弟たち、分かりやすく説明しましょう。人の作った遺言でさえ、法律的に有効となったら、だれも無効にしたり、それに追加したりはできません。

3:16 ところで、アブラハムとその子孫に対して約束が告げられましたが、その際、多くの人を指して「子孫たちとに」とは言われず、一人の人を指して「あなたの子孫とに」と言われています。この「子孫」とは、キリストのことです。

3:17 わたしが言いたいのは、こうです。神によってあらかじめ有効なものとして定められた契約を、それから四百三十年後にできた律法が無効にして、その約束を反故にすることはないということです。

3:18 相続が律法に由来するものなら、もはや、それは約束に由来するものではありません。しかし神は、約束によってアブラハムにその恵みをお与えになったのです。

3:19 では、律法とはいったい何か。律法は、約束を与えられたあの子孫が来られるときまで、違犯を明らかにするために付け加えられたもので、天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものです。

3:20 仲介者というものは、一人で事を行う場合には要りません。約束の場合、神はひとりで事を運ばれたのです。

3:21 それでは、律法は神の約束に反するものなのではないでしょうか。決してそうではない。万一、人を生かすことができる律法が与えられたとするなら、確かに人は律法によって義とされたでしょう。

3:22 しかし、聖書はすべてのものを罪の支配下に閉じ込めたのです。それは、神の約束が、イエス・キリストへの信仰によって、信じる人々に与えられるようになるためでした。

3:23 信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視され、この信仰が啓示されるようになるまで閉じ込められていました。

3:24 こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。

3:25 しかし、信仰が現れたので、もはや、わたしたちはこのような養育係の下にはいません。

1) 神様がアブラハムと結んだ契約と律法とどちらの方が古いですか？神様がアブラハムと結んだ契約は律法によるものですか、それとも信仰によるものですか？ _____

2) 律法は何の目的でつくられましたか？ _____

3) キリストが現れる前に律法が養育係りのように私たちを管理していました。子供の頃、親や教師などに管理されないと勉強できない問題がありましたか？成熟したキリストとの関係は自分にとって何を意味しますか？ _____

<五日目：キリストを着ている実の息子> ガラテア 3：26－29

3:26 あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。

3:27 洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。

3:28 そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。

3:29 あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

1) 毎日どのような服装で仕事に行きますか？服装によって、自分の精神状態、仕事へのやる気、人からの対応が影響されますか？あなたにとってキリストを着ているということはどういう意味ですか？ _____

2) ガラテヤの教会で奴隷であったり、女性であったり、異邦人であったことで差別を受けながら生きていた人がいました。かつて何かのことによって差別を受けたり、偏見をもたれて傷ついた経験はありますか？ある人に対して偏見をもちやすいですか？神様にとって一人一人は平等であり、自分の息子であり、自由な身分です。 _____

ガラテヤ書 QT シリーズ 三週目

ガラテヤ 4 章～5 章

<一日目：奴隷ではなく、子供である> (ガラテヤ 4 章：1-7)

4:1 つまり、こういうことです。相続人は、未成年である間は、全財産の所有者であっても僕と何ら変わるところがなく、

4:2 父親が定めた期日までは後見人や管理人の監督の下にいます。

4:3 同様にわたしたちも、未成年であったときは、世を支配する諸霊に奴隷として仕えていました。

4:4 しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。

4:5 それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。

4:6 あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。

4:7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

4:8 ところで、あなたがたはかつて、神を知らずに、もともと神でない神々に奴隷として仕えていました。

4:9 しかし、今は神を知っている、いや、むしろ神から知られているのに、なぜ、あの無力で頼りにならない支配する諸霊の下に逆戻りし、もう一度改めて奴隷として仕えようとしているのですか。

1) ガラテヤの人々はキリストに出会う前に奴隷として生きていましたか？自分の人生を振り返って、あなた自身はクリスチャンになる前、何の奴隷として生きていましたか？ _____

2) 神様の子供になったということは自分にとってどのような意味がありますか？嬉しいですか？神様がお父さんであることの実感がありますか？ _____

<二日目：病気の中で福音を伝える> (ガラテヤ 4：12-20)

4:12 わたしもあなたがたのようになったのですから、あなたがたもわたしのようになってください。兄弟たち、お願いします。あなたがたは、わたしに何一つ不当な仕打ちをしませんでした。

4:13 知ってのとおり、この前わたしは、体が弱くなったことがきっかけで、あなたがたに福音を告げ知らせました。

4:14 そして、わたしの身には、あなたがたにとって試練ともなるようなことがあったのに、さげすんだり、忌み嫌ったりせず、かえって、わたしを神の使

いであるかのように、また、キリスト・イエスでもあるかのように、受け入れてくれました。

4:15 あなたがたが味わっていた幸福は、いったいどこへ行ってしまったのか。あなたがたのために証言しますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出してもわたしに与えようとしたのです。

4:16 すると、わたしは、真理を語ったために、あなたがたの敵となったのですか。

1) パウロがガラテヤにいた時、闘病していたためその地域にいたと言われていいます。(マラリアにかかっていた可能性) しかも目が悪かったことはよく知られています。その難しい状況の中でパウロは福音を伝えてくれました。自分が聖書を勉強した時のことを思い出してください。具体的に勉強してくれた兄弟姉妹からどのように神様の愛を感じましたか? またパウロの様に福音を伝えていますか? _____

2) 誰かに真理を語られた結果、関係が難しくなったしまったことはありますか? 今振り返るとそこには真理があったと思えますか? 可能であれば神様にその人のことを感謝し、和解する機会があればそのために祈ってください。 _____

<三日目：キリストによる自由> (ガラテヤ5：1－5)

5:1 この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださいました。だから、しっかりしなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。

5:2 ここで、わたしパウロはあなたがたに断言します。もし割礼を受けるなら、あなたがたにとってキリストは何の役にも立たない方になります。

5:3 割礼を受ける人すべてに、もう一度はっきり言います。そういう人は律法全体を行う義務があるのです。

5:4 律法によって義とされようとするなら、あなたがたはだれであろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います。

5:5 わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、“霊”により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。

5:6 キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

5:7 あなたがたは、よく走っていました。それなのに、いったいだれが邪魔をして真理に従わないようにさせたのですか。

5:8 このような誘いは、あなたがたを召し出しておられる方からのものではありません。

5:9 わずかなパン種が練り粉全体を膨らませるのです。

5:10 あなたがたが決して別な考えを持つことはない、わたしは主をよりどころとしてあなたがたを信頼しています。あなたがたを惑わす者は、だれであろうと、裁きを受けます。

5:11 兄弟たち、このわたしが、今なお割礼を宣べ伝えているとするならば、今なお迫害を受けているのは、なぜですか。そのようなことを宣べ伝えれば、十字架のつまずきもなくなっていたことでしょう。

5:12 あなたがたをかき乱す者たちは、いっそのこと自ら去勢してしまえばよい。

1) なぜパウロは割礼を受けることにこれほど反対していますか？何がこのことによって危機的だと考えられますか？ _____

2) もともと割礼というのは何のためにありましたか？なぜキリストの十字架によってこれはいらぬものになりましたか？ _____

3) 6節によると「愛の実践を伴う信仰こそ大切」と書いてあります。今の自分の人生においてこの「愛の実践を伴う信仰」とは何か具体的に書いてください。 _____

<四日目：自由をどのように活かすか？> (ガラテヤ5：13-21)

5:13 兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。

5:14 律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

5:15 だが、互いにかみ合い、共食いしているのなら、互いに滅ぼされないように注意しなさい。

5:18 しかし、霊に導かれているなら、あなたがたは、律法の下にはいません。

5:19 肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、

5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、

5:21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。

1) クリスマンになったことによってどのように自由になりましたか？具体的にどのような罪から開放されましたか？ _____

2) 「隣人を自分のように愛しなさい」と命じられています。あなたは自由を自分のために使っていますか？それとも隣人を愛するために使っていますか？今、具体的にどの隣人をどのように愛するように心がけているか書いてください。 _____

3) 最近の自分の人生においてこのガラテヤ5：19からの罪のリストを考えるとどの罪に陥っていますか？このことを兄弟姉妹に告白し助けてもらって下さい？ _____

<五日目：聖霊の実> ガラテヤ6：22-26

5:22 これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、

5:23 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。

5:24 キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです。

5:25 わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。

5:26 うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりするのはやめましょう。

1) 霊の実である喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制 この言葉を一つずつ書き出して、あなたにとっての定義を書き出してください。必要であれば辞書でこの言葉を調べてください。 _____

2) この中で今、最も身に着きたいものはどれですか？何故ですか？ _____

ガラテヤ書 QT シリーズ 四週目

ガラテヤ 6 章

<一日目：互いに荷を担い合う> (ガラテヤ 6 : 1 - 6)

6:1 兄弟たち、万が一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、“霊”に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。

6:2 互いに**重荷**を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです。

6:3 実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるなら、その人は自分自身を欺いています。

6:4 各自で、自分の行いを吟味してみなさい。そうすれば、自分に対してだけは誇れるとしても、他人に対しては誇ることができないでしょう。

6:5 めいめいが、自分の**重荷**を担うべきです。

6:6 御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。

1) 罪に陥っている兄弟姉妹を助けようとした時にどのような誘惑にあいますか？どのように心の準備をする必要がありますか？ _____

2) 自分を過剰評価していることはありませんか？具体的にどの点で過剰評価をしてしまっていますか？又は過小評価してしまっていますか？自分の行いをもう一度吟味しましょう。 _____

3) 重荷について正しく理解しましょう。2節の「重荷」＝バロス：豊富、重すぎる、負担。4節の「重荷」＝フォルティオン：請求書、奉仕、仕事。

この聖句の正しい読み方は重過ぎる負担は互いに担い合う。自分でとるべき責任や仕事などは自分で責任をとること。今の自分にとって、「重荷」と感じ助けが必要で自分では負いきれない責任などは何ですか？ _____

<二日目：蒔いた種は必ず刈り取る> (ガラテヤ 6 : 7 - 8)

6:7 思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。

6:8 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。

1) 蒔いたものを刈り取るということは神の法則である。これは絶対的な真実である。今までのクリスチャンライフでいい種を蒔いていいもの刈り取った例

を考えて書き出してください。 _____

2) 振り返ると、クリスチャンとしてよくない種を蒔いて、よくない結果を刈り取ったことを思い出せますか? _____

3) 具体的に今はどのような形でいい種を蒔こうと心がけていますか? _____

<三日目：たゆまず善を行いましょう> (ガラテヤ6：9－10)

6:9 たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。

6:10 ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう

6:11 このとおり、わたしは今こんなに大きな字で、自分の手であなたがたに書いています。

1) 今まであきらめないで飽きずに励んでいた結果として時が来ていい実を刈り取った経験を思い出してください。現在どのような実を刈り取る夢を持っていますか? _____

2) 霊の家族の中であなたの善の行いを必要としている人はいますか? 今週、兄弟姉妹のために特別に愛を示すために何かを考えて実行してください。(パウロは目が悪かったと言われている中でわざわざ自筆で手紙の一部を書きました。 _____

<四日目：十字架への誇り> (ガラテヤ6：14)

6:14 しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。

1) 自分にとって十字架がどのように誇るものであるかを深く考えて、書いてください。 _____

2) 十字架以外に誇りとしてしまうことは何ですか? _____

<五日目： 新しく創造される> (ガラテヤ 6 : 15 - 18)

6:15 割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。

6:16 このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。

6:17 これからは、だれもわたしを煩わさないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。

6:18 兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アーメン。

1) クリスマンになってどのように神様に新しく創造されましたか? _____

2) ガラテヤ書を学ぶことによって、自分自身が最初の確信から、又は最初の愛からずれて流されてしまっていたことに気がつきましたか? _____

3) パウロは自分の背中に迫害の後であるイエスの焼き印を身に受けていると言いました。あなたにとってのイエスの焼き印とはどういうものですか? _____

4) ガラテヤ書を学んだ上で決心したことがあれば書いてください。 _____
